

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン】

事業名	医療分野におけるIT化推進人材の育成教育プログラムの開発		
学校法人名	学校法人 都城コア学園		
学校名	都城コンピュータ・福祉医療専門学校		
代表者	理事長 渡辺 幸久	担当者・連絡先	上村 光昭 0986-38-4811
<p><事業の概要></p> <p>医療分野においてIT化の推進が盛んに行われているが、専門学校が、レセプトコンピュータやその他の病医院情報システムの活用能力を習得させ、医療業界におけるIT化を推進するリーダー（（仮称）医療ITインストラクター）育成の教育プログラムを開発し、実践する。又、この教育を受けた地域へ供給し、現場において有効性の検証し、教育プログラムの再開発を行う。</p> <p><成果></p> <p>(1) 教育・進路指導を通して、ユーザが望む資格、人材とは果たしてどのようなものか、日々考えていた矢先、ニーズの調査、実態調査などまたとない機会となり、概ねではあるが、病院・医院での傾向が把握できた。</p> <p>得られた結果を平成18年度に新設するメディケアビジネス科のカリキュラムに反映でき、就職指導に活かしていくことが可能になった。</p> <p>(以下 アンケートのまとめより抜粋)</p> <p>a. 患者数に対する医療事務職員の割合は、25～30人に1人である。</p> <p>b. 病院、医院のコンピュータ利用率は90%以上であり、将来計画を含めると95%使用する状況にある。</p> <p>c. コンピュータの使用業務は、主にレセプト業務、医事会計業務で60%を超え、診療情報業務を加えると約73%となり、将来的には診療情報業務に比重が大きくなると予想される。</p> <p>d. 病院、医院では職員教育に熱心で、接遇マナー、医療報酬事務の順と成っている。これは、より職業的なスキルよりも病医院という患者やその家族と接する部署であることから、接遇マナーが教育プログラムの最優先になっており、重要視されていることが推測される。</p> <p>e. 職員を採用するときの条件として、求人票を見るとよく「経験者を求む」とあるので経験を重要視すると予想していたが、一般的にコミュニケーション能力・ビジネスマナー・人間関係、電話応対等を重要視している状況が浮かび上がった。</p> <p>f. 今後必要と思われる資格として、診療情報管理士が多かった。</p>			

(2) 訓練カリキュラムの成果の一つとして、資格取得を挙げていた。当初、医療秘書教育全国協議会の医療秘書技能検定試験、医事コンピュータ技能検定試験、およびC o m p T I A A +を計画していた。しかし、A +以外は試験日程の関係で実証講座中に受験できなかったため、かわりに日本医療教育財団の医療事務技能審査試験（医科）2級と医事オペレータ技能認定試験を計画した。医療事務技能審査試験（医科）2級には8名中7名が合格した。また、医事オペレータ技能認定試験についても8名中7名が受験した。可否の発表は3月下旬の予定である。

「C o m p T I A A +」については、実証講座中の受験には至らなかった。理由としては、カリキュラム履習のスケジュール上、先に医療関係の資格試験を受験したため「合否がわかってから」という受講生の心理が働いたこと。「C o m p T I A A +」の受験料が1科目当たり約2万円であり、A +を取得するためには2科目合格する必要があることから最低でも約4万円必要であることも災いした。しかし、受験を考えている受講生もいるので今後も働きかけていきたい。

また、今回断念した医療秘書教育全国協議会の医療秘書技能検定試験が6月に実施されるので、受講生に案内し、受験を促していきたい。

(3) 今回の事業で実施したアンケート先を医師会加盟の病院・医院としたことにより、宮崎市郡医師会、都城市郡医師会に協力を仰ぐことにした。協力を得られたのは、文部科学省の委託事業であることが大きい。この事業以前は個々の病院・医院と個別に折衝していたが、これを機会に医師会との連携が、これまで以上にとりやすくなった。